

夜、息子が受験勉強をしていると、突然「英作文がお手上げた」と言いました。私も英語が苦手だけれど、中学校程度ならどうにかなるかと思い問題をみてすぐに絶句・・・。

例えばこのような設問です。

（問題文は英語）留学生の友人が、「夏休みに母国から訪ねてくる。日本のどんな場所を訪ねて、どんな体験を計画したらよいだろうか。楽しんでもらいたいのだけれど、何かいいアイデアはある？」に対して答えは、20 語以上 30 語以内かつ 4 文以上の英語でアドバイスを書きなさい。（茨城県公立 2015）というものです。

この問題は、文法や単語力も必要ですが、会話を読み取る力、夏におすすめしたい場所や今までの体験を想起する知識やセンスなども求められることを考えれば「なんて難しいんだ！」と感じてしまいました。

解答例としては（英語ですが）「富士山に行くのはどう？日本で一番高い山です。美しいので、多くの日本人は好きです。外国人の間でも人気があります」とのこと。一方、息子とはいえば、知っている単語を駆使して、「海はどうだい？泳げる。釣りもできる。その後冷たいジュースでも飲もう」と書きました。母は「そのプランも楽しいと思う！」と励ますのみでした。やはり英語力がないと添削もできません。

すると翌朝、NHK ラジオ番組「三宅民夫のマイあさ！」を聞いていると、「どうする英語教育？」と題した特集をしており、思わず聞き入ってしまいました。その中で、令和 2 年 4 月から小学校の英語教育が前倒しになり、3 年生から「外国語活動」として「聞くこと」「話すこと」を中心に年に 35 コマ、5 年生からは教科「英語」として「読むこと」「書くこと」を加えて、週 2 コマ年 70 コマで実施されるということです。



番組内のゲストは NHK 英語講座の講師を 30 年以上続けている、昭和女子大学客員教授杉田敏（すぎた さとし）氏でした。杉田氏は「早期教育が効果的というのは間違った神話ではないか。むしろ思考力の土台となる母語や、常識を先に学んだ方が良い」とした上で、「小学校では、押しつけにならないように気をつけて、英語嫌いにしないこと、興味を持たせ続けることが一番大切だ」と強調していました。

また、杉田氏の話の中で意外だったのは、興味関心を持たせるためには「英語以外に自分が何に興味を持っているか」を自覚させることがカギになることです。好きなスポーツ、ドラマ、音楽でも何でも良いそうです。また、英語上達の方法としては、米国の小学校で

行われる「Show&Tell」というコミュニケーションとプレゼンテーション学習方法を薦めています。日本では低学年の国語で使われる手法ですが、これを英語でやることも薦めています。

一方、教える側の先生方には 2014 年から順次研修が実施され、準備が進められています。杉田氏は「もちろん小学校の先生方は研修を受けているけれど、指導することに困ると思う。だからこそ、大切なのは自らを偽らない、ごまかさないこと。今は帰国子女もいるので、授業で活躍してもらおう方法もあるし、もしかして、得意でない先生に教われれば『先生に学んだだけではだめだ。自分で勉強しなくては』と自ら勉強する気にさせることもできます」と励ましの言葉を述べていました。

杉田氏自身も、公立中学校 1 年生から英語を学び始め、担当の先生が英語の指導があまり得意ではなかったが、決してごまかしたりはしなかったそうです。だからこそ「自分で勉強しよう」と思い、現在があるとのことでした。

時代によって求められる知識や技能は変わりますが、根底にはやはり「いかに興味・関心をもたせるか」に尽きるようです。【Y】

〇メルマガで取り上げて欲しい内容やご感想など、下記アドレスにお寄せいただければ嬉しく思います。（アドレス登録又は配信停止もこちらからどうぞ(^_^)

mailto:kosodatem@pref.iwate.jp

〇メルマガのバックナンバーを当センターHPで閲覧することができます。

アドレスはこちら

「まなびネットいわて」（<http://www2.pref.iwate.jp/~hp1595/>）>「発行物・刊行物」

>すこやかメルマガ

これからも、どうぞよろしく申し上げます(^_^)/

【発行】

岩手県立生涯学習推進センター

025-0301 花巻市北湯口2-82-13

TEL 0198-27-4555

URL:<http://www2.pref.iwate.jp/~hp1595/> 「まなびネットいわて」で検索